

# 保険・年金 フォーカス

## 【アジア・新興国】

# ベトナム生命保険市場(2023年版)

保険研究部 常務取締役研究理事 松澤 登

(03)3512-1866 matuzawa@nli-research.co.jp

## 1—はじめに

ベトナム社会主義共和国（以下、ベトナム）は東南アジアに位置する人口1億30万人（2023年）<sup>1</sup>の新興国である。その面積は33万1346km<sup>2</sup>であり、日本の約88%である。

2023年の名目GDP総額は4300億米ドル（以下、単にドルと表記）となっている。また一人当たり名目GDPは4282ドルで、同じ東南アジアのタイ（7332ドル）の6割弱である。

実質GDP成長率の伸びについてだが、新型コロナ回復期であった2022年の対前年比8.02%増から、2023年は5.05%増と伸び率は減少した。平均6-7%増を維持していた新型コロナ以前の成長率よりも緩やかな伸びにとどまった。

ベトナム経済は近年、農林水産業中心から工業およびサービス業へと徐々に重心を移してきた。2023年度は各産業とも伸びてきているが、特にサービス業の伸びが顕著である。各業態のGDP増加率であるが、農林水産業は対前年比3.83%の増加であり、工業・建設業は対前年比3.74%増加である。一方、サービス業は対前年比6.82%増となった。輸出入は世界総需要の減少と戦争など輸出入市場の不確定要因の中で困難に直面した。輸出額は3547億ドルで前年比4.6%減となり、輸入額は3264億ドルで、同じく9.3%減となった結果、輸出入額の合計は6.9%減の6811億ドルとなった。

2023年の失業率は2.28%で2022年と比較して0.06%低下した。消費者物価上昇率について2022年は対前年比3.15%増に対し、2023年は対前年比3.25%増となったが、ベトナム議会の設定した範囲内には収まった。

以下ではベトナム財務省保険監督部が発行した2023ベトナム保険市場年次レポート<sup>2</sup>のデータを元

<sup>1</sup> 各種数値はベトナム統計総局の数値を引用。<https://www.gso.gov.vn/wp-content/uploads/2023/06/Sach-Nien-giam-TK-2022-update-21.7-file-nen-Water.pdf> なお、一部データがない項目があり、その場合外務省HP、ジェトロのデータを利用した。

<sup>2</sup> 「The Annual Report of Vietnam Insurance Market 2023」ベトナム財務省HP  
[https://www.mof.gov.vn/webcenter/portal/cqigsbh/pages\\_r/l/chi-tiet-tin-cuc-quan-ly-giam-sat-bao-hiem?dDocName=MOFUCM286227](https://www.mof.gov.vn/webcenter/portal/cqigsbh/pages_r/l/chi-tiet-tin-cuc-quan-ly-giam-sat-bao-hiem?dDocName=MOFUCM286227) 参照。

にベトナム生命保険市場について解説を行う。以降の数字、図表は同レポートよりの引用である。

## 2—保険市場の概況

1976年の南北ベトナム統一時、南ベトナムにあった既存生保は消滅した。以降、1964年に当時の北ベトナムで設立された国営保険会社であるベトナム保険会社（現在のBao Viet Holdings）のみが、伝統的損害保険商品に限定して販売するという一社独占体制が長らく続いた。政府は現在も共産党一党独裁制が続いているが、1986年に開放政策であるドイモイ政策が打ち出された後、保険市場の開放が進むこととなった。

保険市場の改革により、1994年に民間保険会社の設立が許容され、1995年には生命保険の販売が再開された。また、1996年には外資系保険会社とベトナム国内社の合弁会社の設立が、1999年には外資系保険会社の100%子会社設立が認められるようになった。これを受け、1999年にPrudentialとManulifeが参入し、以降、外資の参入の本格化が進んだ。2023年末の生命保険会社数は19社である。

市場規模としては、収入生命保険料が年間156兆9890億ドン（9234億円（2023年12月の円ドン為替レートの概算である1円=170ドンで計算、以下同じ））である。ベトナムにおける生命保険の市場浸透率（Insurance Penetration、対GDP保険料収入）はGDPが上昇する一方で、保険料収入が減少したため、2023年は1.54%（2022年1.87%）と対前年比で減少した。

## 3—新契約の状況

2023年におけるベトナムにおける生命保険の新契約は大きく減少した。2023年の生命保険新契約件数は1,913,546件で対前年比43.44%減となった。うち、個人保険が1,913,178件、団体保険が368件（加入者は102,009人）である。なお、新契約減少の原因については後述する。

新契約個人保険の収入保険料は24兆2650億ドン（1437億円）で対前年比46.17%減となった。団体保険も含む付保保険金額は1010兆3750億ドン（5兆9433億円）で対前年比39.43%減となった（特約含みでは36.80%減）。個人保険の主契約平均付保保険金額は5億1400万ドン（302万円）となっている。新契約件数が対前年比で大幅減少したが、一契約当りの平均付保保険金額は10.21%増加している。

団体保険の平均付保保険金額は一団体当たり751億ドン（4億4176万円）で、加入者一人当たり直すと2億7100万ドン（159万円）となっている。

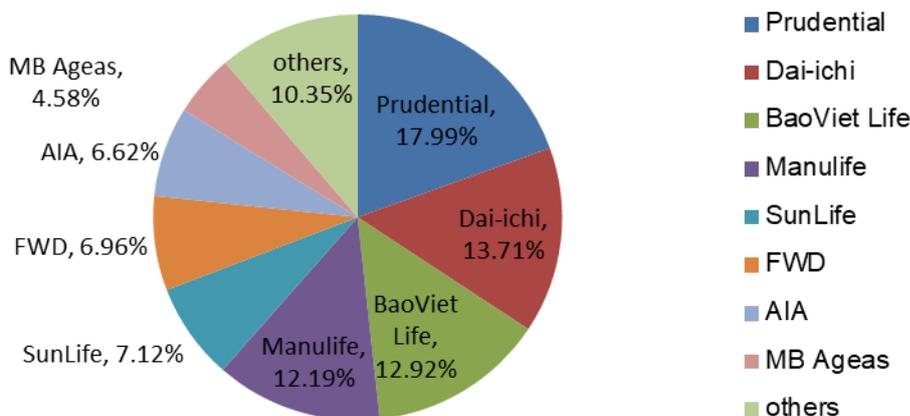
新契約の会社別マーケットシェア（新契約収入保険料ベース）であるが、収入保険料ベースで順に、Prudential(17.99%)、Dai-ichi(第一生命ベトナム、13.71%)、Bao Viet Life(12.92%)、Manulife(12.19%)、Sunlife(7.12%)、FWD(6.96%)、AIA(6.62%)、MB Ageas(4.58%)、となった(次頁図表1)。

収入保険料ベースの新契約シェア状況の推移を見ると、2022年に首位に躍り出たPrudentialが引き続きトップを維持したほかは、順位が大きく変動した。昨年度2位であったManulifeが対前年比5.4%減とシェアを大きく減らして4位まで順位を落とした。そして、Dai-ichiが0.39%増加して2位に上昇した。さらに2022年に4位だったBao Viet Lifeは1.9%近くシェアを増やして3位に順位を

あげた。

【図表 1】 会社別新契約シェア

## 2023年度会社別新契約シェア (新契約収入保険料ベース)



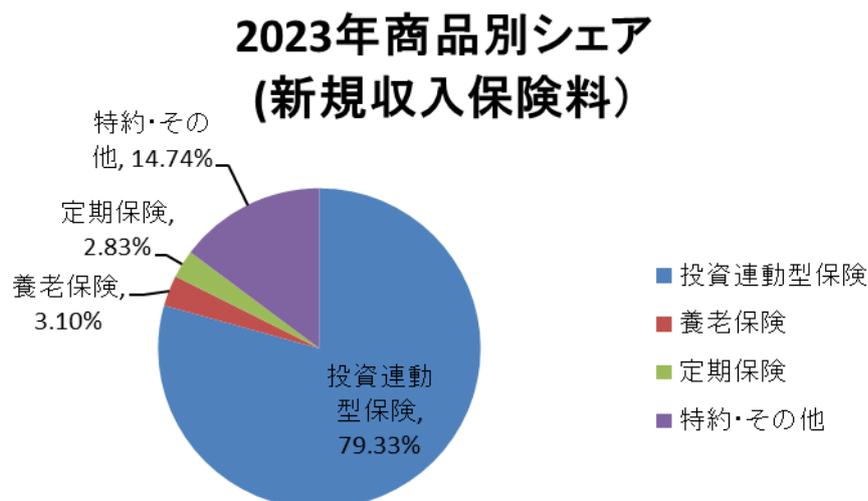
新契約の商品状況を見ると、これまでは収入保険料ベースでは貯蓄・投資性の商品がほとんどであり、特に投資連動型保険の販売に集中していた。2023年もやはり投資連動型保険が最も売れた商品であるが、ほぼ半減している。これは、ベトナム株式指数 (VN)<sup>3</sup>が2022年時点で1500台程度あったものが、2022年末に900台まで下落し、2023年は高くとも1200程度であったことが影響しているものと思われる。

これを新契約収入保険料ベースで見ると、投資連動型保険(investment-linked products)は2022年に43兆4970億ドン(2558億円)あったものは、2023年は22兆3560億ドン(1315億円)へと48.43%も大幅減少している。なお、ベトナムの統計上、ユニットリンク保険とユニバーサル保険とをまとめて投資連動型保険として分類している。

他方、少額ではあるが、定期保険 (Term life) が8000億ドン(47億円)で対前年比37.45%増、養老保険 (Endowment) が8760億ドン(51億円)で対前年比82%増となっている(図表2)。

<sup>3</sup> 2000年7月28日を基準日とし、その日の時価総額を100として算出される。

【図表 2】商品別新契約シェア（新契約収入保険料ベース）



付保保険金ベースで見ると、投資連動型保険が 59.08%となっている。そのほか、養老保険 0.05%、定期保険が 3.43%となっている。

定期保険は新規販売件数が 551,313 件、平均的な保険金額は 9520 万ドン（56 万円）程度であり、小口契約が多い。

#### 4—保有契約の状況

生命保険の保有契約は、個人保険と団体保険の合計件数が 12,441,387 件<sup>4</sup>、対前年比 10.46%減となり、内訳として個人保険は 12,440,568 件、団体保険の総件数は 819 件（団体保険の加入者は 213,813 人）となっている。団体保険の規模は大きくない。

保有契約の収入保険料については上述の通り、156 兆 9890 億ドン（9234 億円）で、対前年比 12.72%減となった。また、付保保険金額は 7921 兆 3490 億ドン（31 兆 281 億円）で対前年比 4.15%減となった。

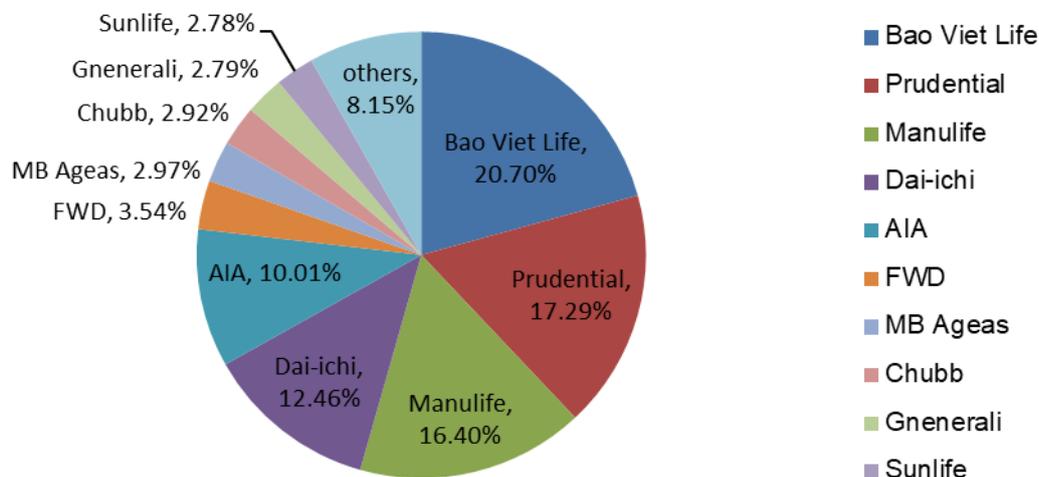
保有契約の収入保険料ベースの会社別マーケットシェアであるが、各社の収入保険料ベースの新契約シェアの順位が入れ替わったにもかかわらず、上位社の前年からの順位の変動は生じなかった。

まず、老舗である Bao Viet Life(20.70%)はシェアを対前年比 2.08%増加させ、2021 年から連続 2 年首位を維持した。2021 年からシェア 2 位であった Manulife(16.40%)は 2023 年に 3 位に下落した。かわって Prudential(17.29%)が 3 位に上昇した。以下、Dai-ich(12.46%)、AIA(10.01%)、FWD(3.54%)、MG Ageas (2.97 %)、と続く(図表 3)。

<sup>4</sup> このほか、特約(riders)が 24,485,471 件となっている。

【図表 3】 会社別保有契約シェア

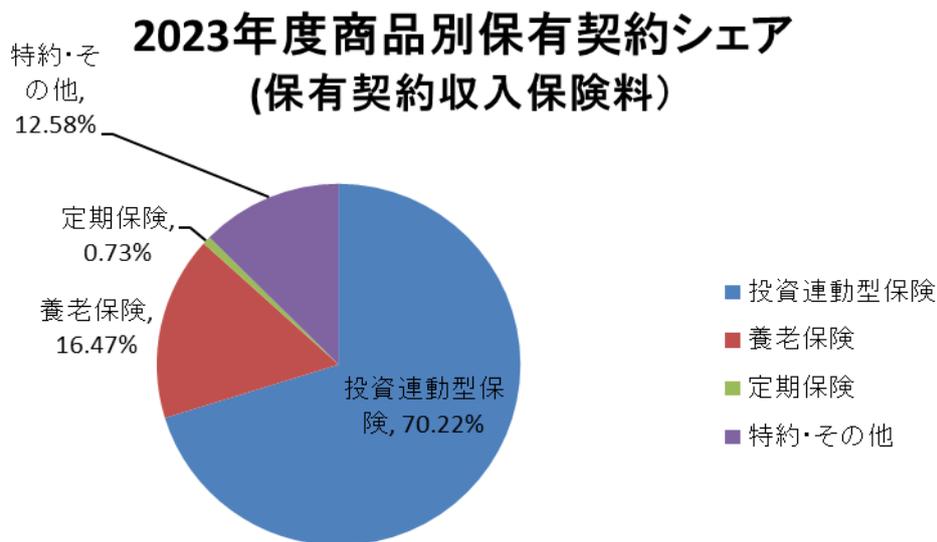
## 2023年度会社別保有契約シェア (保有契約収入保険料)



保有契約を商品別に見ると収入保険料ベースで投資連動型保険が 70.22%、養老保険が 16.47%、定期保険が 0.73%である(次頁図表 4)。

付保保険金額ベースで見ると、保有契約は、投資連動型保険が 60.45%、養老保険が 3.94%となっている。

【図表 4】 商品別保有契約シェア (収入保険料ベース)



なお、保険金の支払状況（解約返戻金払戻を含む）であるが、総計で 60 兆 410 億ドン（3531 億円）、対前年比 41.07%増となっている。これらの給付のうちのほとんどは養老保険と投資連動型保険の満期保険金と解約返戻金である。株の暴落で解約が進んだことがうかがわれる。また、責任準備金

は 562 兆 80 億円 (3 兆 3059 億円)、対前年比 12.60%増となった。

## 5—販売チャネル

販売チャネルとしてはエージェント (個人、法人)、ブローカー、銀行窓販などがあるが、近時は生命保険会社と銀行との業務提携による銀行窓販が活発である。法規制上においては、2020 年には保険のコンサルティングには資格を要することとするなど、保険販売における事業の環境整備が行われている。

2023 年では、エージェントについては、個人エージェントが大幅に減少した一方で、法人代理店に属するエージェント数は小幅増加した。結果として、個人エージェント(営業職員等)と、法人に属するエージェントを足した数は 776,107 名に達し、前年比 15.37%減となった(図表 5)。

【図表 5】 個人・法人エージェント数の推移

年	個人エージェント数 (名)	法人代理店		エージェント数 合計(名)
		代理店数(店)	エージェント数(名)	
2022 年	645,764	585	271,358	917,122
2023 年	468,711	653	307,396	776,107

## 6—おわりに

2023 年のベトナム経済そのものは成長基調であったが、輸出入の停滞が顕著で、株価も 2023 年はさえない展開が続いた。

この株価低迷を生命保険業界はもろに受けることとなった。もともと生命保険業界の主力商品は貯蓄・投資性商品であったが、2021 年、2022 年辺りは投資性商品に販売が集中する傾向にあった。そこに株価暴落が直撃して、全体として生命保険業界は新規契約販売が半分近くまで落ち込み、また個人エージェントが大幅に減少するなど大きな打撃を受けたとみられる。

また、このように生命保険商品が売れないことを受けたものであろうか、個人のエージェントは 3 割弱も減少することとなった。

私見ではあるが、これを契機とし、投資商品偏重の販売戦略を修正して、保障性の高い定期保険や終身保険などにも焦点が当たることを期待したい。